

山梨県固定資産評価審議会 議事録

1 日 時 平成29年2月21日（火） 13時28分～14時20分

2 場 所 県庁防災新館 201会議室

3 出席者（敬称略）

（委員）小野賢二（代理：植木章夫）、柏原秀文、黒羽雅子、小林恵、
関光良、曾雌芳典、竹野光美、田中光子、野田岳志、松野範子、
許山敏

（五十音順）

（事務局）市町村課課長、総括課長補佐、税政担当課長補佐、税政担当（4人）

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (3) 会長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

5 議事に付した事案の件名

- (1) 平成29年度固定資産（土地）の提示平均価額（案）について
- (2) その他

6 議事の内容

(1) 平成29年度固定資産（土地）の提示平均価額（案）について

（会長）

はじめに、「平成29年度固定資産（土地）の提示平均価額（案）について」事務局から説明をお願いします。

（事務局）

－資料1、資料2、資料3により、平成29年度固定資産（土地）の提示平均価額（案）について説明－

(会長)

事務局からの説明について、質問等はあるか。

(委員)

中部横断道路の建設に伴う影響は出ているか。

(委員)

中部横断道路が静岡まで延長しないと影響は出てこないのではないか。

リニアの話もあるが、これからは、高齢化が大きな問題となってくるので、甲府駅周辺など、駅周辺のエリアが居住スペースとして見直される等、土地利用の形態が大きく変わってくるのではないかと考えている。

(委員)

甲州市と身延町について、下落率が大きい理由は。

(事務局)

住環境等が整った利便性のよい地域、例えば、甲府市・甲斐市・昭和町等は下落率1%であるが、その地域に人気が集まる一方で、その周辺エリアは利便性があまりよくないため人気がなく、また取引も少ないため、下落率が大きくなっている。

(委員)

峡東地域は、農村部が占めていて不動産取引は低迷している。身延町は、高齢化・過疎化が進んでいるおり、ほとんど不動産の動きがない。若い世代にとっては、生活環境が厳しいため、分譲地があっても数区画しか売れず、土地の下落に歯止めがかからない状況となっている。

(委員)

昨年、石和のホテルを中国系の方が購入しているという話があったが、最近の外国の方の不動産取得はどのような状況か。

(委員)

石和のホテルを中国系資本が購入し、自国の方々を誘致しているという状況は今も続いているが、一時より観光客は減っており新規取得もみられない。

山中湖周辺では、台湾系資本が商業施設を購入している。他県では、北海道で中国系資本がかなり購入しているようである。長野県の野沢温泉などはオーストラリア人がスキー場をかなり安い値段で購入し、自国の人を誘致しているという話を聞くが、

安く買うため逆に地価が下げ止まらないとの話を聞く。山梨県の場合は、数カ所、外国資本が購入しているという状況である。

－その他質問等なし－

(会長)

事務局が提示した原案どおりとしてよろしいか。

(各委員)

－賛意表明－

(2) その他

(会長)

その他として何かあるか。

(委員・事務局)

特になし。

(会長)

以上をもって議事を終了する。